

OISCA

—人と育む、地球といきる—



[TOPIC]

“南の海”を愛した男が託した未来

～フィリピン・ミンダナオ島の今～

MAY | 5
2026

今月の
OB & OG

日本で学んだオイスカ研修生の今を紹介します。

オイスカと協力した
取り組みも
続けていきたいです！



FILE No. 09

テブクル・K・テレイ (55)

愛称：テブクル

- 出身国 パラオ
- 研修歴 中部日本研修センター／
農業一般コース (1990年～91年)
- 現在の職業 パラオ共和国 農業・水産・環境省 (MAFE)
農業局 園芸部門部長



現在も農業に関わる仕事をしています！

日本での経験を糧に、農業発展に尽力しています！

オイスカで過ごした時間は私の人生を大きく変え、現在の仕事への道筋だけでなく、個人の価値観にも大きな影響を与えました。特に中部日本研修センターでは、畜産や農業機械、野菜栽培について習得。技術や知識だけでなく、規律や時間厳守、仕事における細部への心配りといったことも身につけることができました。また日本で印象的だったのは、富士山や別府温泉訪問、白馬でのスキー、京都のお寺巡りです。これらの経験を通して、日本文化への理解と、研修仲間との友情を深めることができました。

研修修了後はパラオに戻り、オイスカ・パラオで2年間勤務しました。その間、国内の「子供の森」計画の立ち上げに携わり、国内各州の子どもたちと一緒に植林を実施しました。また、フィリピンで地域の森づくりにも参加し、森林再生と劣化した土壌の回復にも取り組みました。その後、農業局の普及指導員として政府機関に

入職。台湾の高雄市にあるアジア野菜研究開発センターでの研修で農業の知識をさらに深め、国連食糧農業機関 (FAO) との協働プロジェクトや、太平洋共同体との地域協力など、多くのプログラムに参画してきました。

現在、園芸部門の部長として、農家支援や食料安全保障の強化、地域コミュニティプログラムを推進しています。日本での経験は、地域や国家レベルでの私の活動において、今も重要な基盤でありつづけています。



今年3月に農業大臣に随行して来日。オイスカ本部で覚書に関する意見交換を行った(前列右から2人目がテブクル氏)

国の生命を守る産業

「農業・山林業・水産業を産業開発の基幹とすべきことを提唱する私の目的・趣旨を重ねて述べたい。

国民の精神と身体が健全に出来て、国の生命となり、国の力となるのである。国民の健全な精神と身体とは自然的な産業に従事し、精励することによってもたらされる。国民を督励して産業に挺身し得る道を開いて指導されよ。強い精神と身体を作って生活の水準を引き上げることが国策の中心とされることを強く希望してやまない。自力更生によって国の生命を守る根本道であるからである。この故に農業を軽視し、工業立国を急ぐことは進歩の順路ではないことを強調するものである。私の最も憂慮する点は、工業立国の方針は産業の不均衡、不順序を引き起こして国家の順調なる発展を阻害すると共に、生起している国家の不安定につけ込んで野心を抱ける国家が、国民に反抗の精神を注入し、思想侵略を行い、知らぬ間に国が根こそぎ揺さぶられる最大の危機を招くことである。農業・山林業・水産業の三業によって国民が生活の安定を得れば、他国の介入する余地は無くなるのである。私は、アジア諸国に対し、極力必要な援助を行うと共に、天地の恩恵、恩沢の中に働く喜び、即ち、新しい産業精神の教化普及に努力し、諸国が一日も早く、自給自足の国家として成長することを念願し、その喜びを共にせんことを祈っているのである（創立者のことば）

これは半世紀以上も前に書かれたものですが、私たちは三十年ほど前には平成の米騒動、そして現在は令和の米騒動と言われる米不足を経験しました。その際メディアで取り上げられたのは「日本のお米は高い」という消費者の声。本当にそうでしょうか。国土を護り、人々の生命を守る農業・林業・漁業が、物言わずして果たしている役割を今一度根本から考えたいと思います。



OISCA MAY 2026 | 5 Contents

- 04 OISCA NEWS 海外／国内
- 06 TOPIC “南の海”を愛した男が託した未来
～フィリピン・ミンダナオ島の今～
- 10 今月のこの人 オイスカ浜松国際高等学校3年 岡村るな
- 12 OISCA SQUARE オイスカ歴史さんぽ／OISCAレストラン／お！ススメOISCA
- 14 INFORMATION 新着情報 ほか

What's OISCA

オイスカ・インターナショナルは、「すべての人々がさまざまな違いを乗り越えて共存し、地球上のあらゆる生命の基盤を守り育てようとする世界」を目指して1961年に創立された国際協力NGOです。現在、41の国と地域にネットワークを持ち活動しています。

公益財団法人オイスカは、1969年にオイスカ・インターナショナルの基本理念を具体的な活動によって推進する機関として生まれ、主にアジア・太平洋地域で農村開発や環境保全活動を展開。特に人材育成に力を入れ、オイスカの研修を修了した現地の青年は、各地で地域開発に取り組んでいます。国内では、農林業体験やセミナー開催などを通して啓発活動を積極的に進めています。

OISCAという名称の意味

O	rganization	機構	人間の生存に不可欠な“産業・精神・文化”のバランスを大事にした発展を世界規模で推進していくことを目的として、このように名付けられました。
I	ndustrial	産業	
S	piritual	精神	
C	ultural	文化	
A	dvancement	促進	

海外 「子供の森」計画
タイでコーディネーター研修を開催
国を越えた絆で未来を育む

2月12〜17日、タイ北部のチェンライ県で「子供の森」計画（以下、CFP）の国際コーディネーター研修を開催。タイを含む、アジア・太平洋地域の8カ国から20名が集まり、コーディネーターの環境教育のスキル向上とネットワーク強化を図りました。



インドネシアのコーディネーターから共有されたネイチャーゲーム（木こりとリス）

研修では、各国の活動報告に加え、森の再生が地域の暮らしを支えている現場を視察。養蜂や竹細工、山菜栽培など、住民が主体的に森林資源を活用し、収益につなげている事例から、地域の人々が連携して、いきいきと環境保全と暮らしを両立させている仕組みを学び、自国で応用するヒントを得ました。また、五感を使って自然への理解を深める



住民リーダーより、竹の活用方法について話を聞く

森歩きや、自然の楽しさを学ぶネイチャーゲームなどの手法も実践的に学びました。さらに、現地の重要課題である山火事を防ぐ「防火帯づくり」の講習も実施。子どもたちの関心を引き出しながら、自然を守る大切さを伝える具体的な方法について理解を深めました。研修終盤にはCFP参加校2校で、今回の研修で学んだプログラムを子どもたちと共に実践しました。

参加者からは「現場で活用できる手法を多く得られた」、「CFPに惜しみなく情熱を注ぐ皆の姿勢に感銘を受けた。自分もさらに頑張りたい」といった感想が聞かれました。プログラムを通じた学びや仲間からの刺激を受け、各国で活動がさらに拡がるのが期待されます。

国内 オイスカ・インターナショナル
10カ国の在日大使館関係者が出席
各国の活動への深い理解が示される

2月26日、衆議院第一議員会館で第47回オイスカ東京フォーラムを開催し、オイスカが活動するアジア・太平洋地域10カ国から、4名の大使をはじめ、12名の外交官ならびに外務省国際協力局の西崎寿美審議官（NGO担当大使兼務）らが出席しました。

「世界は一つ」を理念に進めてきた各国の活動について、「富士山の森づくり」など国内の森林再生事例にも触れながら紹介しました。また、オイスカ国際活動促進国会議員連盟会長の石破茂衆議院議員は「オイスカは1961年創設の歴史あるNGOで、その活動は意義深い。今後も技術力と人材育成による国際貢献を支援したい」と挨拶。さら



ウズベキスタンのムクシクジャ・アブドゥラフモノフ大使（前列右から2人目）は日本語で挨拶。現地総局設立による体制強化や国際理解の促進への期待を述べた

国内 中部日本後援会
ECO-DRRの現場を人材育成に活かす
オイスカならではの実践事例を共有

3月9日、愛知県名古屋市内で中部日本後援会（勝野哲会長／中部電力(株)代表取締役会長）が活動報告会を開催しました。同会は、中部経済連合会に加盟する愛知、岐阜、三重、静岡、長野5県のオイスカ法人会員で構成されており、中部日本研修センターの運営を支援するために2004年に発会。現在は54社が所属しています。

中部日本後援会では、センターの取り組みだけでなく、国内外の活動の今を知り、オイスカへの理解を深めるための活動報告会を毎年実施しています。今回は、オイスカの神野重行評議員、光岡保之愛知県支部会長をはじめ、会員企業16社24名が参加。本部の吉田俊通啓発普及部GSM担当部長が、「森林など生態系を活用した防災・減災（ECO-



今後は、報告会の充実と参加者を増やすことについても検討される予定

DRR）とオイスカの実践」と題して、東海5県のECO-DRRの実例や、海岸林再生プロジェクトをはじめとする国内外の現場を人材育成事業にどのように活かせるか、連携の事例を紹介しました。

に、スリランカのピヴィトル・ジャンク・クマラーシンハ大使は、現地の活動について次世代リーダー育成、多様な主体との連携、有機農業を含む技術推進の3点を評価し、今後のさらなる発展への期待を示しました。



国内 各種行事で国内外の取り組みを発信 シンポジウムなどでスタッフが登場 海岸林の松くい虫被害勉強会も

3月13日、「緑の国際協力で進める森づくり・人づくり・地域づくり」(国土緑化推進機構、国際緑化推進センター共催)をテーマとするシンポジウムが東京都内で開催されました。これは緑の募金法制定30周年を記念したもので、これにより募金の国際協力事業への活用が可能となったことから、緑の募金の支援が進む海外の事例発表が行われました。オイスカからはインドネシアの事例を紹介。学校とその周辺で行う緑化や水保全のための施設整備など、「子供の森」計画をベースにして事業を展開し、子どもたちを主体にその効果を地域に波及させ



トークイベント翌日には現場で松くい虫被害の勉強会が行われた

ていく手法に関心が集まりました。

また、「海岸林再生プロジェクト」でも、東日本大震災から15年の節目に開催された各種行事に参加。3月9日に国連大学で開かれたシンポジウム「地域レジリエンスを高めるパートナーシップ―つながりを活かした実践のヒント―」(主催：環境省、国連大学サステイナビリティ高等研究所)では、プロジェクト担当の吉田俊通が宮城県庁との連携事例を紹介。同14日には、仙台防災未来フォーラム2026(主催：仙台市)において、森林総合研究所の中村克典研究専門員を講師に迎え、松くい虫被害が迫りくる名取市の海岸防災林のこれからを考えるトークイベントを開催しました。参加者からは「行政による松くい虫対策も大事だが、市民が愛着を持つ森にしていくことが最も重要」といった意見が聞かれるなど、今後のプロジェクトの活動に対する示唆に富んだイベントとなりました。

海外 ウズベキスタン 開発が進むウルゲンチに支局発会 日本とのビジネスマッチングにも期待

今年度発会したウズベキスタン総局が、全国に活動を広げるべく各地で支局の立ち上げを進めています。

3月3日、日本などから会員ら10名が現地を訪問したのに合わせ、ウルゲンチ支局の発会式が行われました。ウルゲンチ市はオイスカが覚書を結ぶホラズム州の州都であり、政府は、同市を西部地域の中心都市として物流、産業の拠

点とすることを目指しています。

発会式には同市の経済・投資担当副市長も参加し、ウルゲンチ支局会長と共に支局事務所のテープカットを行いました。事務所は開発が進むエリアにあり、周辺では大規模な建設工事が行われています。その中には日本の投資が進むホテルや商業施設などが入る複合ビル「ジャパンプラザ」



日本人参加者からは「3年後の変化を見てみたい」など、開発が進んだその後の街の姿に関心を寄せる声が聞かれた

海外 インド・JICA草の根事業 各村で炭を使った農業テスト実施 訪日研修事前セミナーで意欲も高まる

2023年に開始した「インド国ガンジス河流域村における水・土・森の自然資源共生型農業技術普及による持続可能な生計向上支援プロジェクト」では、対象の3村で竹炭を活用した有機栽培技術の普及の試みが進められています。

3月17〜28日、プロジェクトを担当するスタッフと専門家が、活動地であるウッタ

ル・プラデシユ州バラナシ県を訪れました。渡航は事前調査を含めて10回目、各村ではすでに専門家の指導のもと窯が設置され、地元のコーディネーターが竹炭づくりに取り組んでいます。また、できた竹炭を20組の協力農家の畑で活用するテストも実施。今回の訪問では、窯の管理と竹炭づくりのフォローアップ、各農家への竹炭の効果等に関

する聞き取り調査を中心に行いました。なお、今年5月下旬には地元農家を中心とした訪日研修を予定しており、去る3月25日に開催した事前セミナーでは質問や意見が飛び交うなど、参加者からの強い意欲が感じられました。

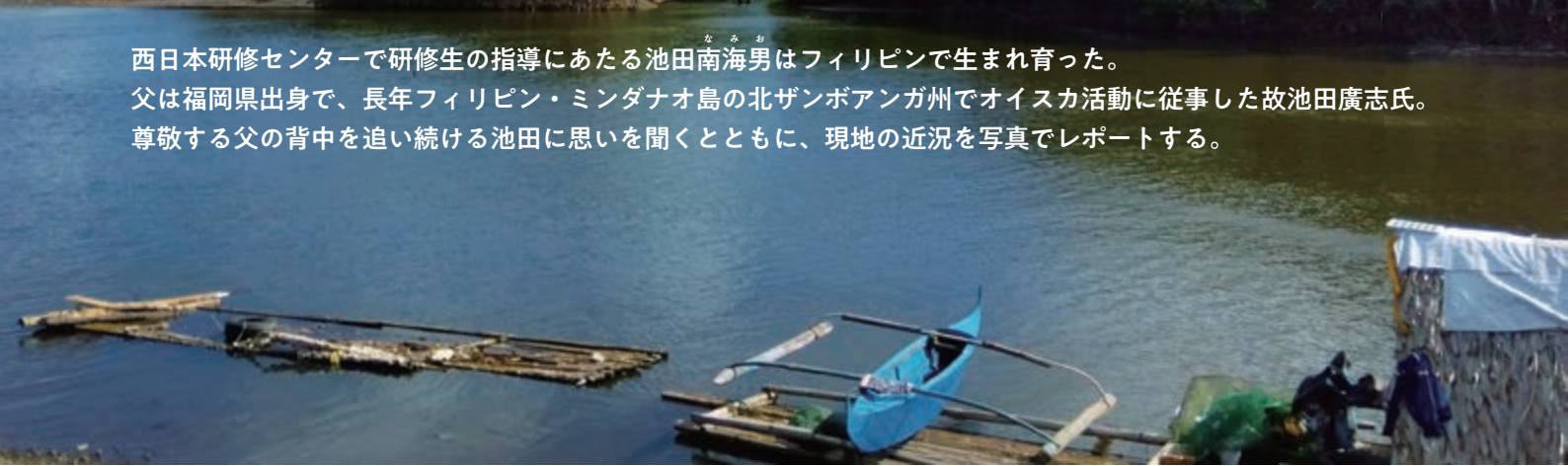


協力農家(中央2名)の聞き取り。竹炭を用いたエリアでは小麦の丈が高く育ち、土壌や作物への効果が確認された(写真はチャドフル村)

“南の海”を愛した男が 託した未来

～フィリピン・ミンダナオ島の今～

西日本研修センターで研修生の指導にあたる池田南海男はフィリピンで生まれ育った。父は福岡県出身で、長年フィリピン・ミンダナオ島の北ザンボアンガ州でオイスカ活動に従事した故池田廣志氏。尊敬する父の背中を追いつける池田に思いを聞くとともに、現地の近況を写真でレポートする。



西日本研修センターの出荷準備の様子。後列右端が本人

池田 南海男 (いけだ なみお)

1977年生まれ。ミンダナオ島のディポログで生まれる。故池田廣志氏が南海ホークス（現ソフトバンクホークス）のファンだったため、南海男と命名されたと言われている。大学卒業後、オイスカ開発教育専門学校（現オイスカアグリカレッジ）で日本語を学び、2004年に開発団員としてミャンマーへ。フィリピンで養豚業を営み、25年にオイスカに復職。3児の父。子どもの名前はあいこ、ひろし、しずか。すべて父がつけてくれたものだという。

——南海男さんは今、どんなお仕事をされていますか？
2025年8月から西日本研修センターでの勤務が始まり、毎日農場に出ています。研修生の指導をしながら、農場で生産した野菜などの出荷をはじめとする、研修農場運営に関わる全ての業務に携わっています。

04年から3年間ミャンマーに駐在した後、オイスカでの活動を続けたかったのですが、結婚して家族がフィリピンにいたので、子どもが幼いうちは一緒に過ごそうと思いい生まれ育ったミンダナオのディポログ市に戻りました。そして、日本で養豚を学んだ研修生OBと一緒に、養豚を始めました。私も養豚はミャンマーで体験していたので、事業は順調でしたが、地域全体にASF（アフリカ豚熱）が蔓延してしまい、残念ながら私たちの養豚場も続けること

ができなくなってしまいました。子どもも大きくなったし、これを機にまたオイスカに戻ろうと決めて今に至ります。

——お父さん、池田廣志さんは南海男さんにとってどのような人でしたか？
それはもう、すばらしい人です。日本人でありながらフィリピンに行って現地の人の生活のために尽くしていたことをとても尊敬しています。誰にでもできることではありません。

最初に入った地域は宗教的な対立から衝突が続く場所でしたし、長く植林支援を続けていたパマンサラン村や、その奥地のバージニア村は、共産ゲリラNPA（新人民軍）に所属する住民が多い地域でした。一般的には危険と考えられているところに日本人が飛び込んで活動していたというだけでもすごいことだと思います。子どもの頃、よくパマンサランに連れていかれましたが、昔は道がなくて車では行けなかったんですよ。センターでは少しの米と干し魚一尾といったわずかな食事で過ごしていました。住民と同じような生活をしていました。



地域に受け入れられる一因だったのかもしれない。

特に尊敬している点は植林を地道に続けてきたことです。植えることは誰でもできますが、大変なのはその後の管理です。苗木が大きくなるまでは草刈りが欠かせませんし、枯れば植え替えもしなければなりません。研修生OBたちの協力を得ながら、それをずっと続けて森を再生させてきたのです。

バージニア村にはスンキラオの滝がありますが、その周辺にも日本から来たボランティアとたくさん植林をしていました。以前は道路が整備されていなかったで、山道を何時間もかけて歩いて行きました。今はディボログ市がきれいに整備しているので、街



池田 廣志 (いけだ ひろし)

◎1941年—2014年

福岡県出身。1970年に30歳でオイスカに入職。前職で社員教育係として人材育成を実践してきた経験を活かし、西日本研修センターで研修生指導に当たる。翌71年、開発団員としてフィリピン・ミンダナオ島へ渡り、農業指導の傍ら、南ミンダナオ大学の農学部設立に奔走。「理論は実践があつてはじめて実を結ぶ」を掲げた指導に大勢の青年が集まった。宗教的な対立による紛争の負傷者の対応を続ける中、在比大使館によるミンダナオ島からの退出勧告を受けるも、拠点を島の最北部に位置するディボログ市に移して活動を継続。同市内の大学にも農学部を設立し、農業研修を実施。その後オイスカ独自の研修センターを設置し、植林プロジェクトも開始。日本からも大勢が研修に訪れ、池田氏の指導を受けた多くの若者が、各国の国際協力の現場で活躍した。



パマンサラン研修センターに隣接する小学校。校舎の裏に立派な森が育っているのが分かる。村の多くの場所がこのように森になっている。オイスカが植林をしたことで村に人が増え、にぎわってきたため「オイスカ村」と呼ばれていたこともあった。以前は村に電気が通っていなかったが、今は学校にも電気が来ており、教室に扇風機や照明設備が設置されたことで、子どもたちが学習に集中できる環境が整ってきている



に住んでいる人たちも車で来られますから、人気の観光地になっていきます。滝の周辺に木がなかったら乾季には水が枯れるかもしれないし、人が見に来たいと思うような美しい景観にはなっていないかもしれないかもしれません。そんなところにもオイスカの植林は貢献していると思います。

山での植林だけではありません。ダピタン市でのマングローブ植林も、父が最初に始めたものです。ディポログからダピタンに行く途中、サンペドロの橋から大きなマングローブ林（6ページ上の写真）が見えるのを知っていますか。あれも全部オイスカで植えたものです。エビなどの養殖池の造成のためにマングローブが伐られてしまった場所もあれば、薪などのために伐られてしまった場所もありました。そうしたところに少しずつ植林をしてきました。植えても波で流され、また植えての繰り返しでした。見事な森になった今、多くの人が写真を撮りに来るなど、注目してくれています。当時は、そうした地道な取り組みには誰も目もくれませんでした。

——お父さんの功績を後世に伝えていく必要がありますね

父は自分の名前を残したいと思っていたわけではありません。ただ森が残れば良いと思っていたのだと思います。森は長きにわたり人々に恩恵をもたらす財産です。父はもういませんが、父が育てた森が今も人々の生活を支えているのは、とても誇らしい気持ちです。それだけで充分ですが、父の活動を日本から応援してくださっていた多くの方々には、今、森がどうなっているのかをきちんと伝えていかなければならないと思っています。特に父の出身地の福岡県からは、毎年現地に足を運んで一緒に植林に参加してください。私もぜひぶんかわいがつてもらったのを覚えています。

父の病気が分かった時に、医師でもある妹と私とでもう仕事を辞めるように説得したのですが、ひどく怒られてしまいました。最期ときまでオイスカの活動を気にかけていました。父ほどの情熱をもって人生をかけて頑張るといふのは、誰でもできること

ディポログ & ダピタンの今



ダピタンのマングローブ植林を担当してきたOB/ノンさん。バイリマゴにも立派な森が育っている



バマンサラン研修センターの裏から下った小川に作られた水浴び場。30年以上前から村の人たちが水浴びや洗濯をしている



ディポログで人気のバオバオ!

ディポログ市内で最近増えているバオバオ。バイクの横にカートをつけた昔ながらのトライシクルもたくさん走っているが、バオバオの人気の高い



多くの観光客が訪れるスンキラオの滝



ではないと思います。今もフイリピンで活躍されている渡辺重美先生（バゴ研修センター所長）や、私がミャンマーでお世話になった岡村郁男先生（ミャンマー農林業研修センター開発技術員／当時）も同様に、本当に特別な人たちだと思っています。

森だけではなく、父の遺志を受け継いで活動するOBたちも大勢います。今もディポログで育ったオイスカのOBたちがふるさとでの農業の発展のために活躍していますし、中には日本のオイスカ研修センターで農業を指導しているOBもいます。かつて農業研修を行っていたバマンサラン研修センターやピニアン研修

センターでは、今は研修生の受け入れをしていません。ただ、父がバマンサランに作ったエコテックハイスクールが公立高校となり、センターに代わる若い農業人材育成の拠点になっています。

——南海男さんも池田さんが育てた人材の一人ですね

父の姿は子どもの頃から見ていましたし、日本で勉強し、ミャンマーで活動をするきっかけをくれたのも父でした。父のように人生の大半を他人のために尽くすような生き方は自分にはできませんが、今与えられた場所で、精一杯頑張ることで父を支えてきてくれた人たちに恩返しができたらうれしいです。



上／北ザンボアングアのOTTA(OB会)メンバー(後列)の会合にマニラ事務所および本部からもスタッフが参加。この日、後列右から5人目の三澤マリアさん(1992年東京)の会長就任が決まったほか有機農業セミナーの実施についても話し合われた(26年1月29日)

左／実現した有機農業セミナー(2月17日)



ディポログ市に移管したものの現在は使われていないバマンサラン研修センターの建物。建物前にあるフィリピンイーグルは今も残っている(本誌12ページ参照)。



バマンサランエコテックハイスクール。トラクターなども配備された実習農場



ピニアン研修センターも建物はあるものの、研修は行われていない。敷地の一部はフィリピンコナツ庁が育苗などに活用している

ディポログ市内にも日本食レストランが!



ディポログ市内の多くの学校で「子供の森」計画による森が育っている

今月のこの人

岡村 るな

オイスカ浜松国際高等学校 3年

オイスカ高校で
さまざまな国籍の
友だちが
できました！



海外の文化や考え方を学び、 将来自らのスキルで人の役に立ちたい！

日本生まれ、ブラジル国籍の岡村さん。自身のように海外にルーツを持つ同世代と交流し、海外につながる機会を通じて経験を積みたいと、オイスカ浜松国際高等学校（以下、オイスカ高校）に入学し、日々学業や部活動、委員会活動に励んでいます。同校では、2年生の希望者がオイスカの活動地で約1週間、さまざまなプログラムを体験する海外研修を実施しており、岡村さんも昨年参加。現地での出会いと経験は、帰国後の学校生活や将来の目標への意欲をさらに高めています。

海外研修はいかがでしたか

私は昨年11月28日〜12月5日の日程で、フィリピンのネグロスへ行きました。ほかにアブラコースがあり、ネグロスを選択したのは20人ほどでした。ブラジルには2回帰ったことはありますが、ほかの国は初めてだったので、全てが新鮮で印象に残りました。現地では、オイスカのバゴ研修センターを訪問して、植林をしたり、バゴシティ大学で英会話のレッスンにも参加しま

フィリピンでは
水牛に乗る体験も
しました！



ご支援ありがとうございました

私が所属するインターアクト部では、地元浜松のロータリークラブと協力して、天竜浜名湖鉄道線の駅の環境整備として行う「花のリレー・プロジェクト」や東日本大震災関連では「チャリティキャンドル」などを一緒に進めています。



ネグロス島のサガイからカービンリーフまで船で移動！とても楽しい時間でした

す。さらに、今年から新しくフードドライブ（家庭で余っている未使用の食品を持ち寄り、福祉団体や施設へ寄附する活動）にも取り組んでいます。

——3年生になり、心境はいかがですか

これまで、学校生活や海外研修を通じて海外の文化や違いなどについて、たくさんのことを学ぶことができました。これからもいろいろな国の人の考え方や生活を知って、今後に活かしていけたらと思います。私は将来、海外と関わりのある仕事に就きたいと考えています。その中で、例えば通訳など自分の使える言葉やスキルを活かして、人の助けになりたいです。進路はもう決めています。

とある日の

岡村さんの1日



06:00 起床

学校へ行く支度をします。

08:00 学校到着

8時45分の授業開始に向け、準備を整えます。

今日も1日
がんばります!!



08:45 授業開始

好きな教科は英語です!

12:45 昼食

今日は「ワールドフェスタ」! オイスカ高校では、岡村さんも所属する国際交流委員会が中心となり、さまざまな国の文化を学び、体験する催しを定期的で開催しており、この日はベトナム料理がランチに登場しました。

ゴイガーサラダとチリソースを
かけた美味しい唐揚げ♡



16:00 部活動

午後の授業を終え、インターアクト部へ!

右の写真は年次報告会の様子。ロータリークラブの皆さんに一年間の活動を発表しました。

部員のみんなど
活動報告!



さらに今年も3.11の「チャリティーキャンドル」イベントに参加! 思いを込めてキャンドルを灯したほか、復興支援のための募金も実施しました。



18:50 スクールバスで帰宅

バスの中でも英検合格に向けて勉強します!



フードドライブの活動。中央の食品を入れる箱は生徒の手作り!

て、オープンスクールにも行きまし
た。今は英検2級の合格を目指して
勉強しています。

4月から最終学年となり、大学受験に向けて勉強に一層力を入れていきたいと思っています。同時に、高校生活最後の一年でもあるので、友だちや先生との時間を大切にしながら、思い出に残る充実した日々を過ごしたいです。また、これまで取り組んできたボランティア活動にも引き続き積極的に参加し、国際交流を通して多くの人と関わりながら、人の役に立てる行動をしていきたいと考えています。

岡村 るな (おかもら るな)

静岡県浜松市生まれ、ブラジル国籍。国際交流に興味を持ち、2024年にオイスカ浜松国際高校に入学。趣味はギターを弾くことと、海外ドラマ鑑賞。将来は、グローバルな仕事を就くことを目指しています!

先生からひとこと



オイスカ浜松
国際高等学校

政本 ゆかり

岡村るなさんと私の最初の出会いは、るなさんのインターアクト部の入部時です。同級生の入部数が少なかったことからか口数が少なく、当初るなさんには恥ずかしがりやのイメージがありました。そのため「この子は部活動が続けられるのかしら」と少し心配をしていました。しかし、そんな心配は杞憂でした。るなさんは、「人々のために取り組みたいこと」が明確です。そして企画・行動力もあります。2年生になり、先輩から部活動のバトンを引き継ぐことになったときには、快く部長を引き受けてくれました。現在は「眠っている食品を誰かの笑顔に」の気持ちを持って、フードドライブの活動に取り組み、生徒や教職員にも熱く協力を呼び掛けています。研修旅行では、昨年11月の台風被害を受けたフィリピンのバゴ研修センターを訪問。ネグロス島の被災状況に心を痛み、帰国してから校内で募金活動に取り組みました。

4月から最高学年になりました。今まで培ってきた社会貢献の気持ちを持ち続け、将来を切り開いていってくれることを期待しています。

—オイスカ—
歴史さんぽ

Vol.18

フィリピン・ミンダナオ島
パマンサランのフィリピンイーグル像



本物のイーグルが
戻ってくる日を待っています！



フィリピン・ミンダナオ島ディポログ市の山の中にあるパマンサラン。1980年代前半頃、かつて山に木がなかったこの集落に“とある日本人”が木を植えはじめました。その後、多くの日本人ボランティアがこの地を訪れ、地域住民と共に植林に参加してきました。今では、見渡す限り森になっています。

その“とある日本人”というのは、本号TOPICで紹介した故池田廣志氏です。池田氏は1990年頃、集落のはずれに位置するオイスカ研修センターの敷地に、このフィリピンイーグル像を建てました。

このイーグルは猿食いワシとも呼ばれ、絶滅危惧種に指定されています。池田氏は「この地に森が蘇り、多くの生命が暮らす森になれば、それらを捕食して生きるフィリピンイーグルも戻ってきてくれるはず」と考え、イーグルが森の上を旋回する日が来ることを願って、この像を建てたのだそう。

時代ごとに塗装し直され、色や模様を変えながらも、パマンサランを訪れた多くの日本人の記憶に残っているイーグル像は、今もこの集落の象徴のようにたたずんでいます。いつか本物が舞い戻るその日まで、この地で森の成長を見守ってくれることでしょう。

写真から伝わる
さまざまに思い
に
フォーカス！





黄色のモチは
ドリアン味！



海外事業部 中垣アダ



\\ インドネシアの
お餅 //

餅といえば日本の食べもののように思いますが、実はインドネシア（の一部?）でも「モチ」は一般的な食べ物なのです。オイスカの研修センターがあるスカブミ県では、「餅」と漢字がデザインされた「モチ」がお土産としても有名です。チョコなどのほかにも、ドリアンといったインドネシアならではのフレーバーも。かつてこの地にあった駐屯地にいた日本兵が作り方を教えたのが始まりだとの話も伝わっているのだそう。

そして、写真でご紹介しているのが、もう一つの研修センターがあるカラングニアル県のラウ山で発見した「ヤマモチ」。オイスカはここで植林活動を

しています。標高が高く、避暑地にもなっており、ここを訪れる観光客にも人気があるようです。お店の外観もパッケージもかなり日本を意識したデザインで、もちろん「ヤマ」は日本語の山。

アジア各地に日本のお餅に似たお菓子はありますが、現地でも「モチ」と呼ばれているのはインドネシアだけではないでしょうか。いろいろなモチ、ぜひ味わってみてください！



杜せきのした駅から
徒歩3分！



JAPANESE PUB

お！ススメ
OISCA

国内外のオイスカスタッフから、さまざまなジャンルの「オススメ」を紹介します！

ボランティアの“迎賓館”「居酒屋竹灯り」

富城県名取市杜せきのした1丁目8-30



2015年、富山県支部としての海岸林再生プロジェクト参加に向けた下見の後、一人夜道をさまよって見つけた赤提灯。早速プロジェクト担当のY部長に、「いいお店でした！」と共有。以来、全国からのボランティアは、Y部長が「迎賓館」と慕うこの店に連れていかれ、にぎわっているのだとか。今は亡き親方からは、「第一発見者のおかげです」とお礼を言われたことも。今年は何が何でも再訪します！（富山県支部 大江敏光）

「富士山の森づくり」活動
今年もご参加
お待ちしております！

虫害の被害を受けたシラベ人工林を、多様性豊かな強い森へと再生する「富士山の森づくり」は、今年で20年目を迎えます。これまで、多くの支援者の皆さまと共に植栽や育林作業を進め、木々は季節の移ろいを映しながら順調に生長しています。しかしながら、台風や大雪、シカの食害などから植えた木々を



守り、100年後の未来へ富士山の森をつないでいくためには、まだまだ多くの人の手が必要です。今年も、ぜひ皆さまのご協力をお願いいたします。

■日時 7月4日(土)

9時半〜14時半頃(予定)

■内容 獣害対策ネット補修(ネットのまき直し及び支柱交換)、除伐など



大阪マラソン2026
今年も応援ありがとう
ございました！

2月22日に大阪マラソン2026が開催され、オイスカのチャリティランナーとして24名が出走しました。オイスカは2014年からチャリティ寄附先団体となっており、今回で11度目の参加です。近年は、雨や雪に見舞われながらのレースでした

が、今年は日中の気温が20℃を超え、2月とは思えないほどの暑さに。朝のスタート時との気温差もあり、ランナーのコンディションへの影響も心配されましたが、ベストを尽くして懸命に走る姿に、沿道の応援にも熱が入りました。

寄附金は大会事務局によってとりまとめられ「海岸林再生プロジェクト」への支援となります。チャリティランナーをはじめ、寄附や現地での声援で応援してくださいました皆さま、ありがとうございました！



笑顔で走り切りました！



EXPOで掲示したボードには、チャリティランナーの意気込みと応援メッセージがたくさん！

研修センター日記

Vol.5 四国研修センター

かがわマラソンのボランティアに参加！

ランナーの皆さん
がんばって！

3月15日、小春日和に開催された第1回「かがわマラソン」に、研修生やスタッフ、四国支部の会員約20余名がボランティアとして参加し、大いに盛り上がりました。今大会では、センターのある綾川町が42.195kmの折り返し地点となっています。全部で13ヵ所設置されている給水所のうち4ヵ所が綾川町にあり、私たちの担当は、その一つである第6給水所でした。

当日は、スポーツドリンクや軽食を1万人超の選手にふるまいました。マラソンの様子はテレビで見ることがありましたが、最前で選手を見る機会はあまりなく、とても興奮しました。競技会は大成功に終わり、その運営者の一人として関わることができ、私にとっても記念すべき一日となりました。(美馬)



第6給水所では、オイスカからのメンバーを含め約100名近いボランティアスタッフが団結！ランナーに賑やかな声援を送りました



ご支援ありがとうございます！

新会員の紹介

新しく会員になられた方は次の通り。(2026年1月10日～3月31日までの間、本部登録済分。順不同、敬称略)

- 維持法人
【静岡県】株式会社エコレイ
- 維持個人
【徳島県】岡本大介【福岡県】秋吉尚美
【岡野早都子】/小川富恵

サポーターの紹介

2025年4月1日～2026年3月31日までにお申込みのあったマンスリーサポーターは次の通り。(順不同、敬称略)

- 【愛知県】中島苑子【富山県】杉本仁志
【島根県】和田衛【山口県】久行菜央子
【福岡県】大神朋子/藤原真理子

寄附

2026年1月1日～2月28日までにいただいた寄附は次の通り。(順不同、敬称略)

- 全国電力関連産業労働組合総連合/「子供の森」計画と海外開発協力事業に合わせて510万円
- 九州電力株式会社/西日本研修センターワンコイン・サポートプログラムを通じて人材育成事業に184万2029円
- ロジスティード株式会社およびロジスティードまごころ基金/富士山の森づくりに100万円
- 株式会社エムアイシーグループ/海外開発協力事業に100万円
- 九州電力労働組合/海外開発協力事業に100万円
- コニカミノルタ労働組合/「子供の森」計画に75万円
- ネクスタグループ(ネクスタ株式会社・ネクスタラップ株式会社・ミツワ紙工所)/「子供の森」計画と海外開発協力事業と人材育成事業に合わせて50万7018円
- リタ・マークス株式会社/海外開発協力事業に34万8900円
- 九州電力労働組合宮崎支部/海外開発協力事業と「子供の森」計画に合わせて20万円
- 株式会社平成興業/海外開発協力事業に25万1400円
- 株式会社岩田産業グループホールディングス/人材育成事業に20万円
- 仙台トヨベット株式会社/「海岸林再生プロジェクト」に25万2645円
- 北電産業株式会社/啓発普及事業に23万8509円
- 鈴木和代(東京都)/オイスカの活動に20万円
- ホッコー商事株式会社/啓発普及事業に17万1097円
- 住友化学労働組合/「海岸林再生プロジェクト」に16万3175円
- 生興株式会社/「子供の森」計画に15万5000円
- 株式会社Hacoa/「子供の森」計画に16万6990円
- トヨタモビリティパーツ株式会社九州北部統括支社/西日本研修センターワンコイン・サポートプログラムを通じて人材育成事業に12万3238円
- 山本哥子(福岡県)/人材育成事業に10万円
- 池田浩二(岡山県)/「子供の森」計画に10万円

2025 オイスカ冬募金

2026年1月1日～1月31日までに「2025オイスカ冬募金」にいただいた寄附(10万円以上)は次の通り。(順不同、敬称略)

- 株式会社maruichi/40万円
- 森田克彦(秋田県)/20万円

海外赴任



4月17日、廣瀬兼明インドネシア駐在代表が、スカブミ研修センターに赴任しました。

(お詫び)
本誌3月号に掲載しました2025オイスカ冬募金にご寄附いただいた方の表記に誤りがありました。
誤 ●久和進(福岡県)/10万円
正 ●久和進(富山県)/10万円
お詫びして訂正いたします。

次号予告

OISCA
JULY | 7
2026

《TOPIC》

訪日研修生
一番〇〇の国(仮)

OISCA 5月号
発行人/中野悦子
発行所/公益財団法人オイスカ
〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目17番5号
TEL (03) 3322-5161 FAX (03) 3324-7111
E-mail oisca@oisca.org
編集: OISCA / 測上保一 倉本有沙
アートディレクション/土肥幹人
デザイン/土肥幹人 坂巻貴行
印刷・製本/株式会社ケープリント

本誌掲載の記事・写真・イラストなどの無断転載を禁じます。



今月の表紙写真

Photo by Hayashi Kumiko



洗剤のCMのように洗濯物が並んでいるのが気になってしまった。洗濯機が普及していないこの村ではみんな川で手洗いしている。このおうちのお母さん、毎日頑張っているんだろうなあ。(フィリピン・ミンダナオ島)

人と育む、地球といきる

理念▶▶▶

Vision

実現したい未来

人々がさまざまな違いを乗り越えて共存し、自然と調和して生きる世界

Mission

日々果たすべき使命・存在意義

私たちは、すべてのいのちが健やかに守られるよう、感謝の心を持つ「人」を育み、いのちの土台となる森づくりや、共に助け合う社会づくりに取り組みます

Value

私たちが大切にしていること

- 互いを理解し尊重
- 土から離れない
- 感謝の心を持ち、へこたれない「人」を育む
- 地域に根差し、住民の「良くしたい」を尊重

Spirit

Visionを達成するために、
私たち一人ひとりが
日々実践する心のあり方

- 先を展望する想像力を持つ
- 着実に一歩ずつ積み重ねる
- 仲間とともにチーム力を発揮する
- 挑戦し続ける
- 経験から学び進化する
- 感謝の心を持つ
- 真摯である
- へこたれない
- 人間味にあふれ、楽しみながら！

公益財団法人オイスカ

オイスカは、会員・支援者の皆さまからの会費や寄附金によって運営されています。「公益法人」としての認定を受けているため、所得税・法人税・相続税、また、条例で定められた自治体では住民税も控除対象となります。受領書をお届けしますので、申告の際にご利用ください。

● 特別会員（年額1口） 法人／10万円 個人／5万円

● 維持会員（年額1口） 法人／4万円 個人／2万円

● マンスリーサポーター 個人／月々2,000円～

※特別会員と維持会員には、会員としての差異はなく、口数とともに、自由にお選びください。

※会員、マンスリーサポーターの皆さまには、広報誌「OISCA」をお届けします。

※新入会年度は、入会月によって納入金額が異なります。

● 「子供の森」計画支援金（年額1口） 個人・法人／5,000円

※海外の支援地域の活動案内（年1回）やニュースレター（年2回）をお届けします。

※子どもたちからのグリーティングカード（年1回）が届きます。

ウェブからも支援のお申し込みができます ▶ <https://oisca.org/>

お問い合わせや資料請求のお申し込みは



公益財団法人

オイスカ

〒168-0063 東京都杉並区和泉2-17-5

☎ (03) 3322-5161 ☎ (03) 3324-7111

E-mail oisca@oisca.org

<https://oisca.org/>

国内研修センター

中部日本研修センター 〒470-0328 愛知県豊田市助八町助八27-56 ☎0565-42-1101 ☎0565-42-1103
 関西研修センター 〒980-0014 仙台市青葉区本町2-10-28 カメイ仙台グリーンシティビル6F ☎022-265-3350 ☎022-281-9077
 首都圏研修センター 〒168-0063 東京都杉並区和泉2-17-5 (公財)オイスカ内 ☎03-3322-5161 ☎03-3324-7111
 山梨県研修センター 〒400-0016 甲府市武田1-2-5 3F ☎055-267-5951 ☎055-267-5951
 西日本研修センター 〒811-1112 福岡県福岡市早良区小笠木678-1 ☎092-803-0311 ☎092-803-0322

国内支部

北海道支部 〒062-0931 札幌市豊平区平岸1条1丁目8-8 ラルズ生活研究センター1F ☎011-867-9684 ☎011-867-9685
 宮城県支部 〒980-0014 仙台市青葉区本町2-10-28 カメイ仙台グリーンシティビル6F ☎022-265-3350 ☎022-281-9077
 首都圏支部 〒168-0063 東京都杉並区和泉2-17-5 (公財)オイスカ内 ☎03-3322-5161 ☎03-3324-7111
 山梨県支部 〒400-0016 甲府市武田1-2-5 3F ☎055-267-5951 ☎055-267-5951
 長野県支部 〒380-0838 長野市東町584 長野県経営者協会総務部内 ☎070-5550-7394
 富山県支部 〒939-2226 富山市下夕林280-3 ☎076-468-7120 ☎076-468-7128
 静岡県支部 〒431-1115 浜松市中央区和地町5815 ☎053-401-3980 ☎053-401-3981
 愛知県支部 〒470-0328 豊田市助八町助八27-56 オイスカ中部日本研修センター内 ☎0565-42-1162 ☎0565-42-1103
 岐阜県支部 〒503-8603 大垣市久徳町100番地 太平洋工業株式会社内 ☎0584-47-9420 ☎0584-47-9419
 関西支部 〒563-0101 大阪府豊能郡豊能町吉川1120 オイスカ関西研修センター内 ☎070-5550-7394
 広島県支部 〒730-0041 広島市中区小町4-33 ㈱エネルギーL&B/バートナース内 ☎082-242-7804 ☎082-242-4706
 四国支部 〒761-2103 香川県綾歌郡綾川町陶5179-1 オイスカ四国研修センター内 ☎087-876-3333 ☎087-876-3334
 西日本支部 〒811-1112 福岡県早良区小笠木678-1 オイスカ西日本研修センター内 ☎092-803-0311 ☎092-803-0322

OISCA NETWORK

福島 〒963-0534 郡山市日和田町字大塚50-8 南根本産業内 ☎024-958-2643 ☎024-958-3741
 茨城 〒311-0113 那珂市中台852-9 ☎029-298-2539 ☎029-298-2539
 神奈川 〒231-0021 横浜市中区日本大通り33 神奈川県住宅供給公社ビル1F ☎03-3322-5161
 三重 〒510-0958 四日市市小古曽1-1-7 中村建設(株)内 ☎059-345-1101 ☎059-345-0745
 奈良 〒630-8444 奈良市今市町53-6 ☎0742-63-6277 ☎0742-63-6277
 徳島 〒770-8555 徳島市寺島本町東2-29 四国電力㈱徳島支店総務課内 ☎088-656-4593 ☎088-656-4511
 徳島 〒790-0924 松山市南久米町乙24-84 ☎070-8524-0349 ☎089-948-8682
 高知 〒780-0870 高知市本町1-6-24 高知商工会議所総務企画部内 ☎088-875-1177 ☎088-873-0572
 佐賀 〒840-0826 佐賀市白山2-1-12-4F ☎0952-28-1368 ☎0952-28-1368
 長崎 〒858-0908 佐世保市光町109 丸堀内組内 ☎0956-47-2127 ☎0956-48-5069
 熊本 〒865-0055 玉名市大浜町2173-1 丸光グループ本社内 ☎0968-76-2161 ☎0968-76-2162
 大分 〒870-0001 大分市生石港町2-12-14 ㈱大分企画内 ☎097-533-2101 ☎097-533-5040
 宮崎 〒880-0879 宮崎市宮崎駅東2-4-9 ☎0985-26-5673 ☎0985-26-5673
 鹿児島 〒892-0817 鹿児島市小川町15-1 ㈱南日本総合サービス内 ☎099-224-3833
 沖縄 〒902-0077 那覇市長田2-12-9 セレクション長田101 ☎098-943-2871 ☎098-943-2881